

職業を通じた奉仕の意義

私がロータリークラブに入会して、最も心に残っている言葉は、「職業を通じて奉仕する」という理念です。入会当初、奉仕活動といえば地域清掃や募金活動など、分かりやすい社会貢献を想像していました。しかし、ロータリーでの学びを重ねる中で、職業そのものを通じて社会に価値を提供することこそが、職業奉仕の本質であると理解するようになりました。

私は現在、全国の介護施設向けに惣菜を製造する事業に携わっています。日々、定められたレシピと製造工程を遵守し、決められた品質と納期で商品を提供することを基本として業務に取り組んでいます。その一つひとつの積み重ねが、施設で生活される入居者の皆さまの毎日の食事を支えています。

あるとき、取引先の介護施設より、「最近、食事を残される入居者が増えている」との相談を受けました。栄養価や献立内容には問題がなく、またコスト面からも大幅な変更は難しい状況でした。通常であれば、規格通りの商品を安定して供給することが私たちの役割ですが、その言葉を受け、「現状のままで本当に良いのか」と自問することになりました。

現場を訪問し、施設職員の方々と意見交換を重ねる中で、嚥下機能の低下や食事に対する意欲の減退といった、数値では把握しきれない課題が明らかになりました。そこには、資料や規格からは見えない、入居者一人ひとりの表情と生活の実態がありました。

そこで私たちは、利益や効率のみを基準とするのではなく、「最後まで安全に食べていただくこと」、「食事の時間を少しでも楽しみに感じていただくこと」を最優先に考え、盛り付け方法や味付け、刻み方の工夫などを提案しました。結果として作業工程は増え、原価も上昇しましたが、食事は介護の質を左右する重要な要素であり、これこそが自らの職業の使命であると判断しました。

その後、施設からは完食される入居者が増え、職員の関わりも前向きになったとの報告を受けました。入居者の方々の笑顔が増えたと聞いたとき、職業を通じた奉仕の意義を改めて実感しました。